

前思春期以降

自分の居場所を探し、自分の存在意義や役割を模索する時期

- 精神的な自立は途上であるにもかかわらず、身体は大人に近付き、心身の発達がアンバランスな状態になりやすい。
- 他者からどう見られているかを過度に意識するようになる。
- 大人に対する反抗（自立）と依存（甘え）といった、両価的な態度が表れる。
- 社会の中で自分にふさわしく感じられる自分の存在や役割を自問するようになる。

前思春期

自分中心の世界から他者との新しい関係へと歩み出す時期

- 自分とは異なる価値観があることを理解し、行動や気持ちを振り返ることができ始める。
- 仲間との関係を大事にし、その中でルールを守ることや協力することを学ぶ。
- 同性の特定の親友ができ始める。
- 同世代との「遊び」を通して、集団活動に主体的に関与するようになる。
- 勤勉性を養う一方で、劣等感を抱きやすい時期でもある。有能感を得ることが大切となる。

自我体験

前思春期の時期には、自分への目覚めともいえる「自我体験」が生じます。それまで当たり前であった事柄に対し、ある日突然違和感や疑問がわき起こり、同時に、自分の存在を揺るがす強烈な感覚が生じる体験です。例えば、「人問って何?」、「自分が死んだらどうなるの?」、「なぜ自分は人間なの?」というように。それゆえに、表面的には安定して見える前思春期の時期ではありますが、心の中は揺れ動き、不安や葛藤を抱えながら大きく変化する時期であるといえるのです。

前思春期以前

二者関係（主な養育者と子ども）を基本にして、人やものとの関わりをもつ時期

- 乳児期には安全で安定した養育者との関係を基礎として、他者に対する基本的信頼感が育つ。養育者を心の安全基地として、外の世界との関わりをもつようになる。
- 幼児期には、養育者に見守られながら、自ら人や環境に働きかけ、興味・関心を広げていく。遊びを通して、他者と相互に関わりを深め、社会性の基礎を身に付けていく。
- 児童期になると、大人の言動を模範としながら善悪についての理解と判断ができるようになる。思考や行動はまだ自己中心的であることが多い。



引用・参考文献

- ◇ 京都府総合教育センター研究紀要 第5集（2016）、第6集（2017）
- ◇ センターだより第169号（2016 9月発行）
- ◇ 「子どもを育む学校臨床力 多様性の時代の生徒指導 教育相談 特別支援」（角田 豊・片山規子・小松貴弘 創元社 2016）
- ◇ 「改訂新版 人格心理学」（大山泰宏 放送大学教育振興会 2015）
- ◇ 「よくわかる発達心理学第2版」（無藤隆 他 ミネルヴァ書房 2009）
- ◇ 「よくわかる臨床心理学」（下山晴彦 他 ミネルヴァ書房 2003）

●まとめにかえて●

学校生活がうまくいっている時もそうでない時も、子どもには大人の支えが必要です。特に、内面の変化が生じ、心が不安定になりやすい前思春期には、身近な大人である教員が「せかさず」「一緒に立ち止まって」感じ、考えるという関わりこそが、子どもたちにとって大きな安心となり、前に進むエネルギーになると考えられます。すべての子どもたちが「包み込まれているという感覚」（京都府の教育の基本理念）を実感できることが大切だといえます。

# 学校不適應の未然防止のためにⅢ

## ～前思春期における教員の関わり～



平成27年度から「前思春期に学校不適應の萌芽があるのではないか」という仮説のもと、「前思春期にどのような教員の関わりが大切か」を明らかにすることを目的として研究を行ってきました。

教育実践の成果を上げるためには児童生徒理解は不可欠です。児童生徒理解に基づいて関わることで「学校不適應の未然防止」につながると考えています。「前思春期」の理解と関わりは、その後の「思春期」の理解と関わりにも役立つことであり、子どもの成長に携わる全教員が知っておきたい視点です。

本リーフレットでは、3年間の研究の成果をまとめて紹介します。

「学校不適應」とは

本研究では、いじめや不登校、非行、学業不振、友人関係など学校に関わる様々な適應の困難さとしてとらえています。

「前思春期」とは

本研究では、身体的な成長などから、11歳を思春期の移行期ととらえ、9・10歳、つまり小学校3・4年生は「前思春期」と定義しました。

### 前思春期という時期は・・・



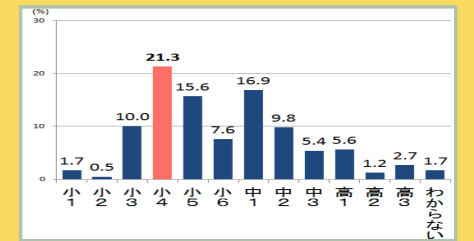
教職員の意識調査（平成27年度研究）から

- ★発達における個人差が出始める
- ★子どもの成長の節目となる
- ★不登校が顕在化し始める

と、実感している教職員が多いことがわかりました。

\*平成27年度の意識調査は全校種の教職員を対象に行いました。

### 変化する節目の学年は



子どもが成長する過程で大きく変化する節目の学年は「小4」に回答が多い傾向が見られました。

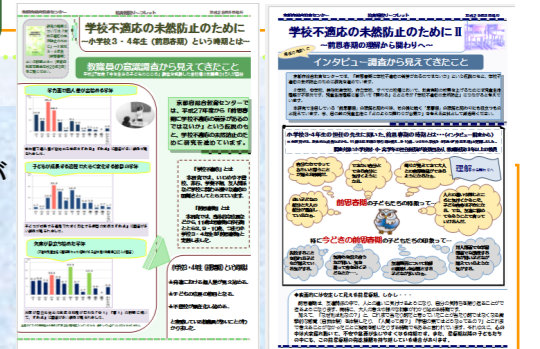
## 研究を通して明らかになったこと

●前思春期の時期は、「発達における質的な転換期」です。さらにこの時期は、心の中が大変揺れ動き、不安や葛藤が生じやすくなる時期といえます。

・自分を客観視できる力が育つなど、自分中心の世界から他者と新たな関係を広げる時期です。特に同世代との関わりが重要です。

●小学校3・4年生を複数回担任した経験豊富な教員は、「学習指導を通じた関わり」はもちろんのこと、学級において「認められる体験」や友達関係の中で「つながる」ことが重要であるととらえ、将来を見据えた関わりを日々の中で常に意識しています。

◇これまでの調査研究は、当センターHPの【研究】コンテンツから御覧いただけます。



# 前思春期における 教員の関わり

前思春期の子どもの特徴をふまえた教員の関わりについて、平成28年度のインタビュー調査、平成29年度「小学校3・4年生のための教育相談講座—前思春期の子どもを理解と関わり—」でのグループワークから受講者の声をまとめました。

## 前思春期の子ども

だからこそ

こんな力を伸ばしたい！  
こんな体験をさせたい！

そのために

## 教員が大切にしている

### 11の関わり

#### ◆もともと前思春期の子どもって・・・

- 「客観的な見方、抽象的なものの見方ができ、視野が広がる」
- 「大人が絶対的な存在でなくなり、反発心も出てくる」
- 「大人の考えを察することができるようになる」
- 「他者との比較ができ、他者と自分との違いがわかるようになる」
- ・・・だからこそ、心が揺れやすい時期

#### ◆これは今の時代を生きる子どもの特徴？ちょっと気になる・・・

- 「自信がない子どもが増えているのでは？」
- 「自分の思いをうまく伝えられない子どもが増えている？」
- 「他者に認められたい思いの強い子どもが多い」
- 「スマホやネットの影響からか、コミュニケーションスキルが低下している？想像力が乏しくなっているのでは？」
- 「人間関係に安心感がもてていない感じがする」
- 「失敗を怖がる子どもが増えているのでは？」

人として楽しいと感じたり、人と折り合いをつけたりできるようにしてほしい...

人と関わる力

自分たちで解決する力

自分で判断ができる力

じっくり考える力

自分の気持ちを伝える力

自分のことを真剣に考えてくれる大人と出会う体験

人のために動く喜びを感じてほしい...

他者に受け入れられる体験

自分を大切にすることが育ってほしい...

感謝する・される体験

自分の存在を認められる体験

わかった！できた！という体験

努力をして達成感を味わう体験

バーチャルではなく実物にふれ、そこから出てくる言葉を大切にしたい...

実物・本物にふれる体験

壁にぶつかり、乗り越える体験

失敗を重ねながらも成功体験を重ね、自信をつけてほしい...

#### ◆失敗しても大丈夫という雰囲気をつくる

- 「やってみよう」「失敗しても次がある」...前向きな声かけを心がける
- 「一生懸命」の価値に気づかせる
- 失敗したときの嫌な気持ちと向き合えるよう支える
- 安心できる居場所をつくる

#### ◆子どもたちの力で計画し実行させる

- 友達とつながる取組を意図的に設定する
- 挑戦の機会を与え、達成感を味わわせる

#### ◆互いに認め合えるような働きかけをする

- 自分の良さに気づかせる
- 多様な考えがあることに気づかせる

#### ◆実物・本物にふれさせる

- 参加体験型学習や現実の対人関係を通して「考える」「感じる」ことを大切にする。

#### ◆子どものそばで一緒に考える

- 一緒に対話しながら考える
- あなたのことを見守っているよ、というサインを送り続ける

#### ◆出番を見極める

- 教員が出るべき時か、見守るべき時かを判断し、子どもの力を最大限引き出す

#### ◆せかさず話を聴き、子どもの思いに関心を寄せる

- 手を止めて聴く
- 指導はするが、子どもの思いを受け止める
- 子どものことを理解しようと、真剣に向き合う
- まずは否定しない

#### ◆気持ちを言葉で伝える

- 「嬉しい」「悲しい」など教員の気持ちを伝える
- 子どもの思いを適切な言葉に置き換える

#### ◆言葉以外のコミュニケーションを意識する

- 目と目を合わせて話す
- 微笑む
- 表情や様子の変化に気づく

#### ◆自分の成長を実感させる

- 過程を認め評価する
- うまくいったことに気づかせる

#### ◆保護者との連携を密にする

- 子どもの良い面や伸ばしたい面を保護者と共有する
- 子どもが保護者に認められるきっかけをつくる

一人一人の子どもに向き合う関わり



## 集団（学級）に働きかける関わり